



吉井川乙子地区改修事業

安全で安心して暮らせる地

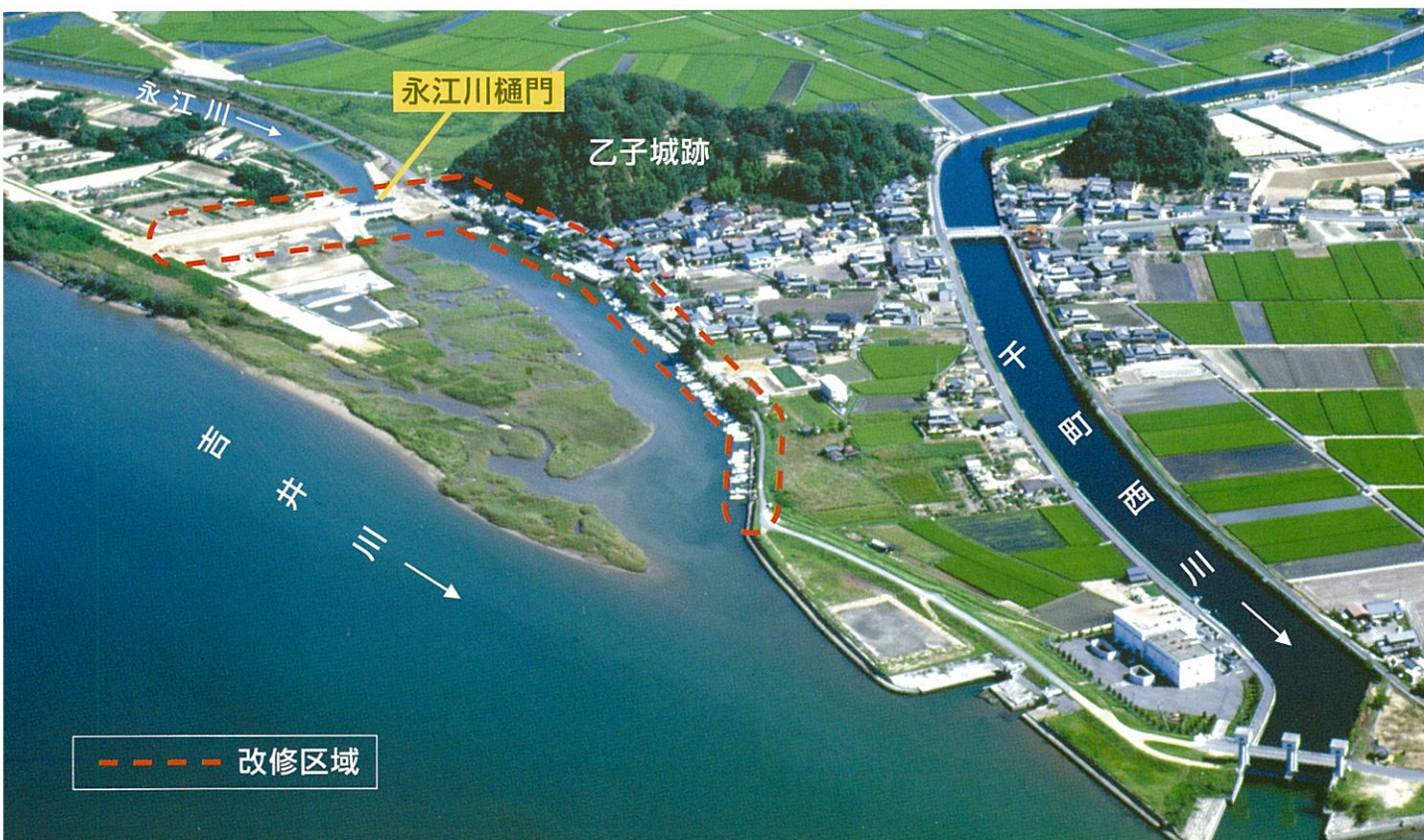
乙子地区改修事業

堤防の強化や治水施設の整備は、洪水や地震が生じたときの被害を最小にするために必要な事業です。またその結果、安心して暮らせる環境を築き、安全な社会基盤を形成することは、私たちの願いでもあります。吉井川水系永江川が合流する岡山市乙子地区は、堤防がないため、幾度も水害に見舞われています。

特に平成2年9月の豪雨では、当地区および、邑久町、長船町まで広範で大きな被害をもたらしました。これをきっかけに国土交通省では岡山県の永江川改修計画に合わせた築堤の建設に着手しました。



流域図

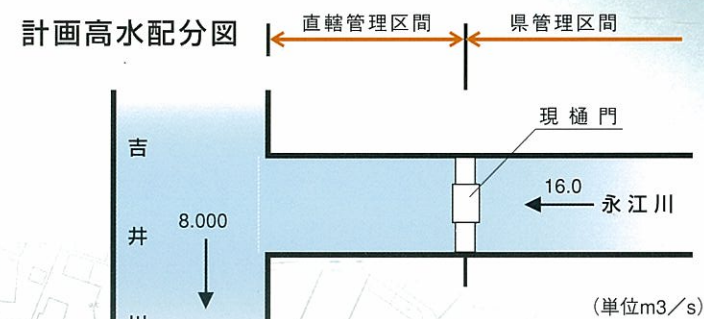


域づくりをめざして。



永江川樋門

完成イメージ図



A

永江川樋門

C

市道拡巾

B

河川堤防

改修事業の内容

A 永江川樋門

満潮時、洪水時等の逆流防止および流域の排水とかんがい用樋門。

B 河川堤防

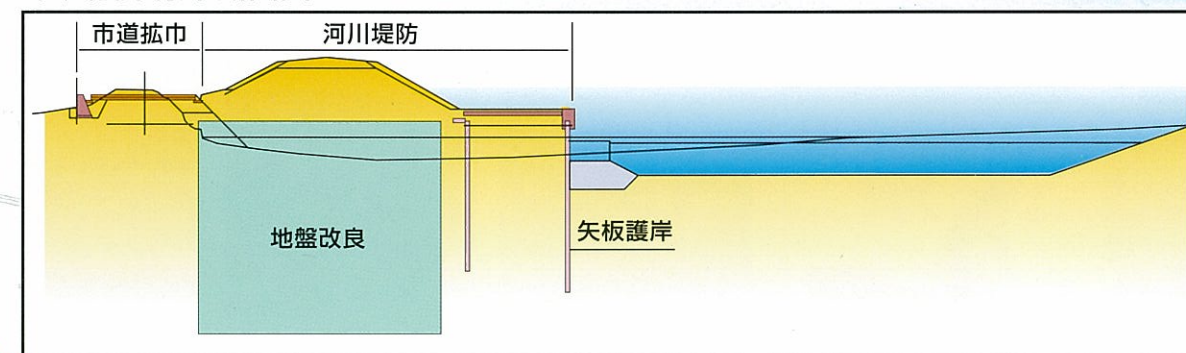
堤防背後地の浸水被害を想定した高い耐震対策設計とする。

C 市道拡巾

河川堤防事業と市道拡幅計画(岡山市)を合併施工。

P 排水機場(岡山市施工)

築堤護岸標準断面図



吉井川 →



環境保全のために

希少生物たちの生態を保護します。

国土交通省岡山河川工事事務所では、現在、吉井川乙子地区において河川改修工事を行っています。この事業は、洪水を安全に流すために、堤防をつくり逆流防止施設を建設するものですが、事業の推進にあたっては、永江川周辺の自然環境に少なからず変化が生じます。そこで環境の保護・保全の観点から調査を行った結果工事予定箇所に、希少種の貝類の生息が確認されました。そこで国土交通省では、工事周辺の希少生物保護のため、希少種貝類の工事予定区域外への移動に取り組みました。作業には周辺住民の方々も参加していただいております、今後も数回に渡って移動する予定です。



山陽新聞／2000年10月13日



●貴重な貝類を現在の生息地域から、影響のない対岸のヨシ原に避難させます。



貝の捕獲作業



選別作業



放流作業

希少種貝類 (記:岡山大学/福田 宏 助教授)

オカミガイ

殻長25～30mm程度の「陸耳貝」で、「陸に棲む人間の耳のような形をした貝」という意味。陸上に棲むかたつむりの祖先にあたり、肺で呼吸するが、水への依存もまだ完全に断ち切っておらず、河口部汽水域の満潮線よりやや上部の狭い範囲に生息が限定される。本種が好む生息環境は、護岸によって最も失われやすいため、現在なお絶滅へ急激に傾斜している。



ヒロクチカノコ

ヘルメットのような形をした殻径12～20mm程度の巻貝で、ヨシ原の中にできる水たまりなどを好み、石に付着している。本種も全国で急減しているが、永江川河口のヨシ原では多産しており、産卵も確認され、極めて貴重といえる。





吉井川シンボルマーク

国土交通省 中国地方整備局

岡山河川事務所

〒700-0914

岡山市北区鹿田町2丁目4番36号

TEL(086)223-5101(代表)

FAX(086)222-7835

国土交通省 中国地方整備局

岡山河川事務所 西大寺出張所

〒704-8194

岡山市東区金岡東町1丁目7番8号

TEL(086)942-2497

FAX(086)942-2958